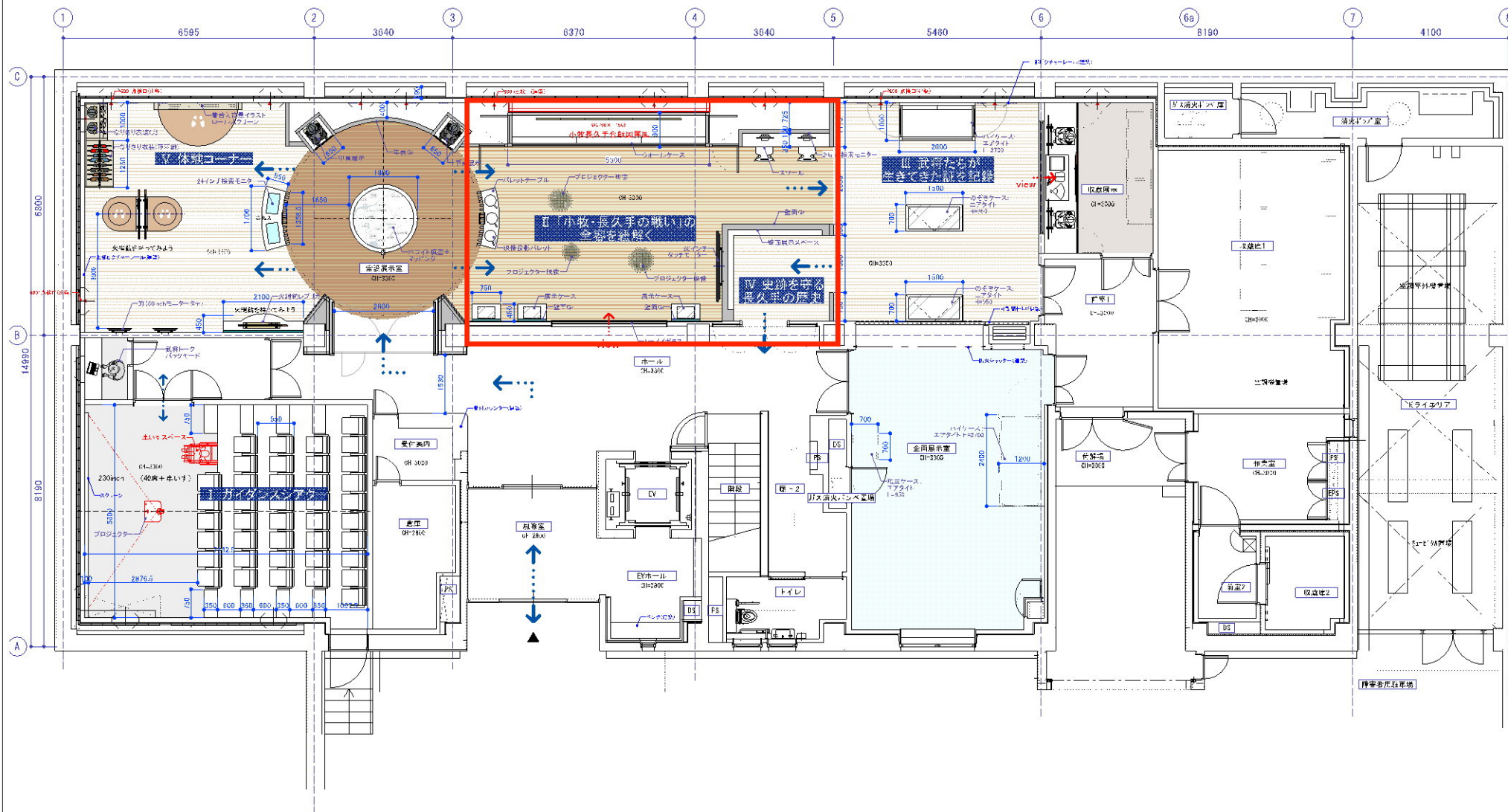
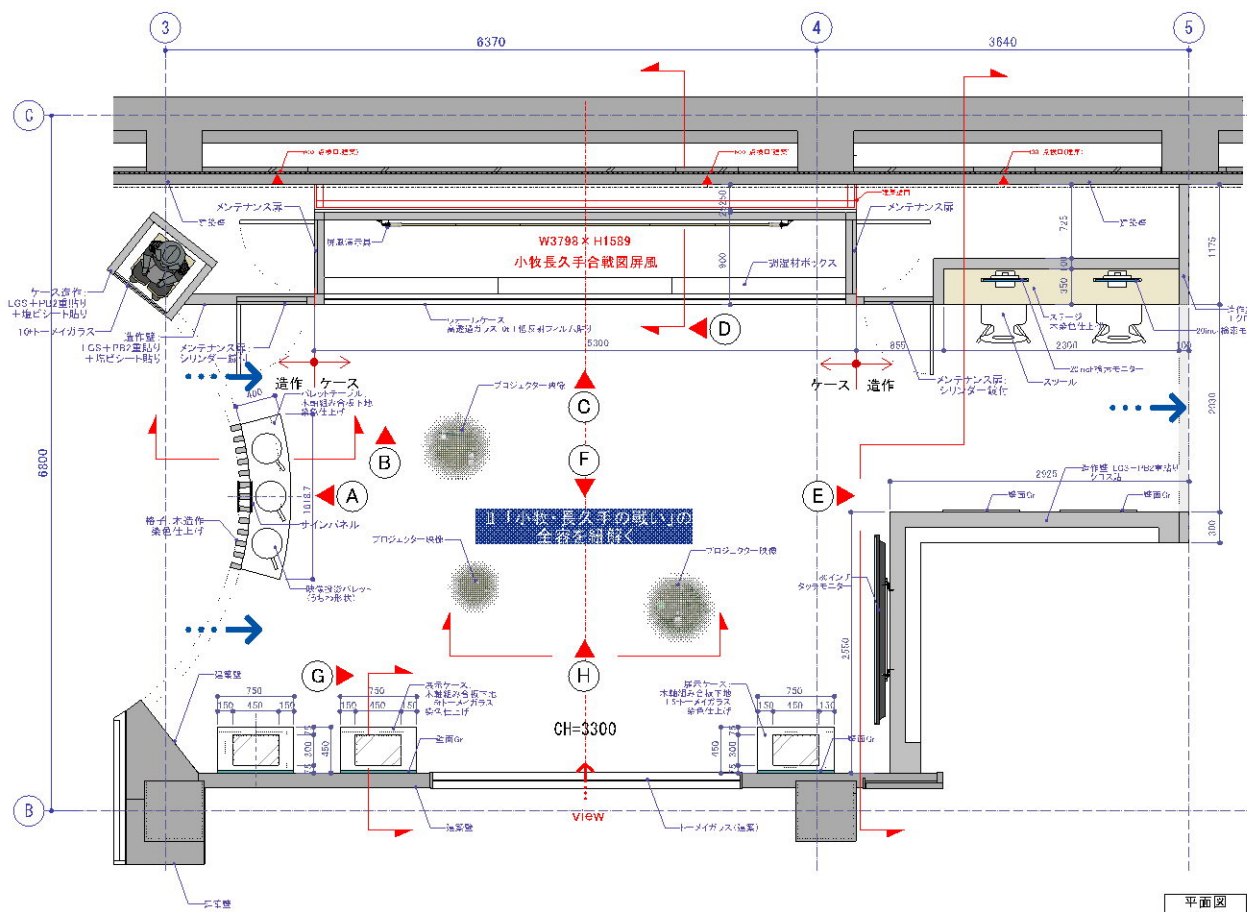
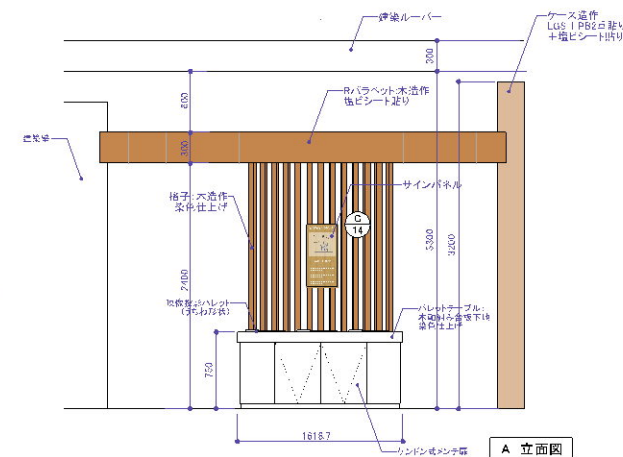


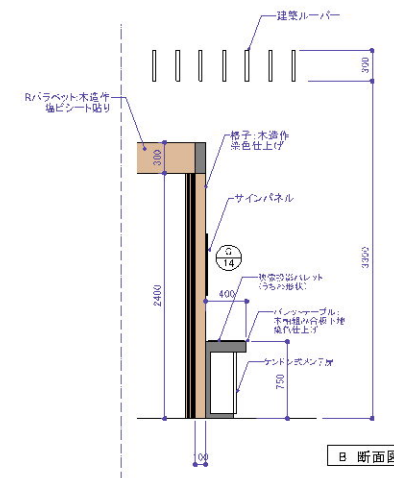




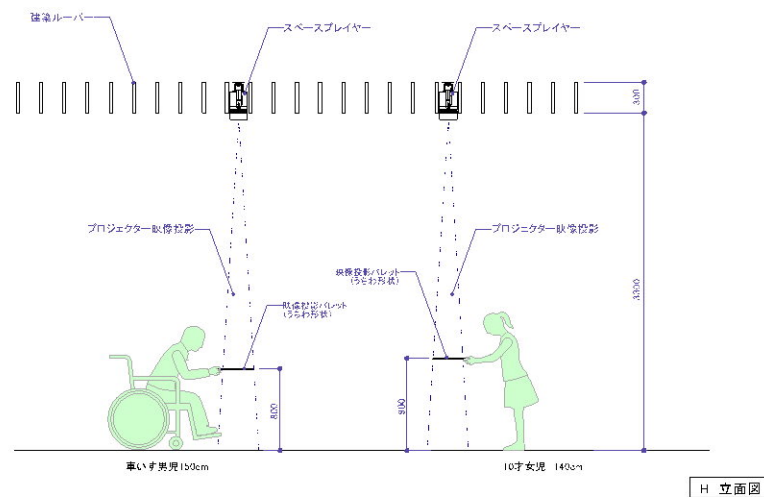
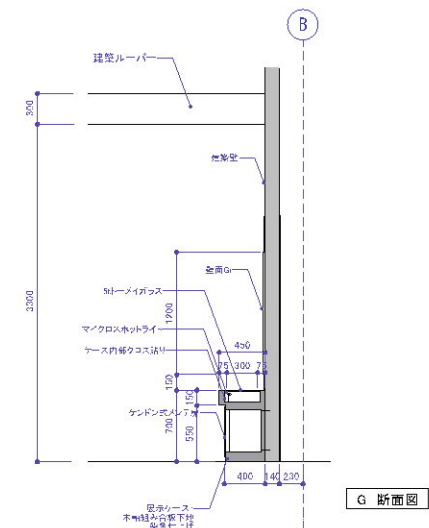
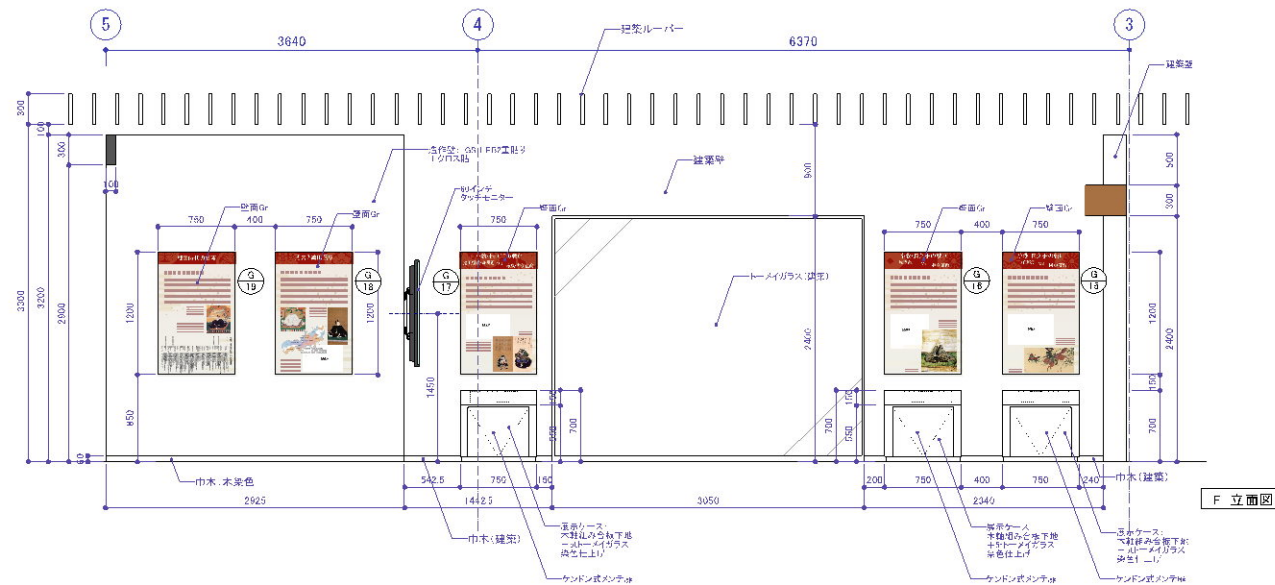
平面図



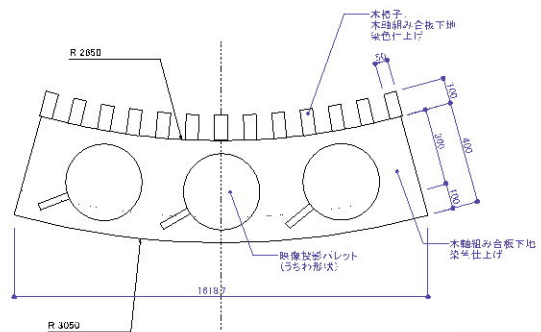
A 立面図



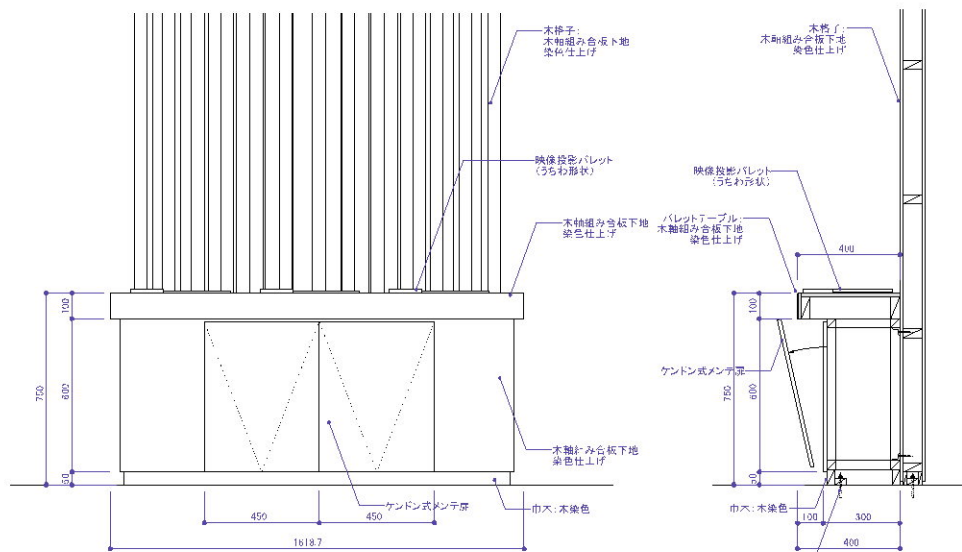
B 断面図



■ パレットテーブル



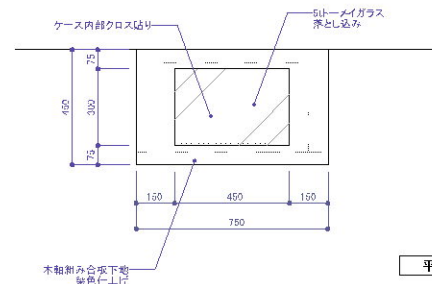
平面图



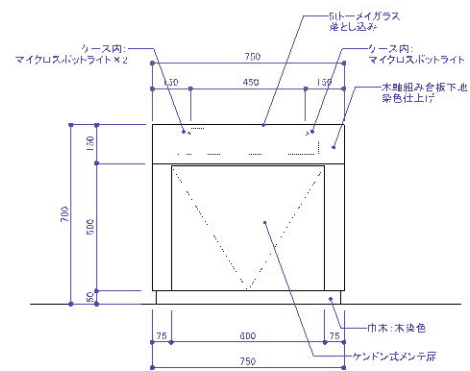
立面图

側面図

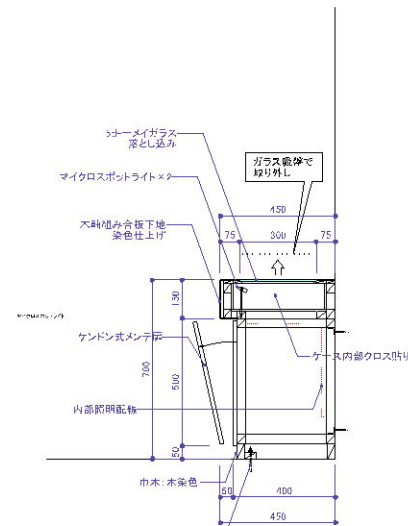
■ 展示ケース



平面图



立面图



側面図

「小牧・長久手の戦い」の全容を紐解くコーナーでは、3種のコンテンツを配置します。
 マッピング映像では、時系列に「小牧・長久手の戦い」とくに長久手での戦いの動きを追い、「武将語り」では、小牧・長久手の戦いの重要人物・武将達の戦いに対する思いやエピソードを伝え、全体から個へとより深い情報を来館者に伝えていきます。

マッピング用映像コンテンツ	武将語り映像コンテンツ	今と昔 比較映像コンテンツ
タイトル 「小牧・長久手の戦い」マッピング(仮称) 上映時間 約5分40秒 想定 仕様 天井吊りのプロジェクターから、長久手周辺の地形模型へ投影をする映像 画面:地図をベースに、イラストやCGを駆使した映像 音響:ナレーションおよび声優による各武将のセリフを入れていく。 ※ナレーションは日本語のみ ストーリー概要 長久手古戦場を中心とした地形模型上に、時系列で織田信雄・家康側と秀吉側の各隊の動きを投影し、見ていく。 各隊がどのような戦略をもって動いているか、など、書物では表現できない、マッピングならではの映像を展開します。	タイトル 『武将語り』 映像数 12本 上映時間 各40～50秒 想定 仕様 4台のプロジェクターで、各3人の武将の映像を投影。 天井から床面に映像を投影。来館者は、備え付けの円形シートを映像にかざすと、センサーが感知して武将の語りが始まります。 画面:イラスト、絵図等 音響:ナレーションおよび声優によるドラマ場面あり 効果音、BGM等 ※ナレーションは日本語のみ ストーリー概要 各12本の映像は、小牧・長久手の戦いに関係の深い武将を選定。復元模写「長久手合戦図屏風」をより興味をもってみてもらうために、屏風に描かれている武将を選定し、描かれた武将の裏側を伝えます。	タイトル ○今と昔の比較映像 ○信雄・家康・秀吉が語る長久手の戦い 上映時間 ○「今と昔の比較映像」 待機画面として常時流れる。 ○「信雄・家康・秀吉が語る長久手の戦い」 ・各1分程度 仕様 ・86インチタッチモニター。 ・待機画面として、常時長久手古戦場の今(写真もしくは動画)と昔(長久手合戦図屏風・部分)を比較する映像が流れる。 ・タッチモニターに振れると、「信雄・家康・秀吉が語る長久手の戦い」の選択画面となり、タッチした武将の映像が見られるしくみ。 ストーリー概要 信雄、家康、秀吉の各武将が、長久手の戦いについてそれぞれの思いを語る。 「武将語り」の中から、主要人物の3武将を取り上げ、モニターで見せていく。

システム概要

86インチタッチモニター

待機映像として、
現在の長久手と合戦図屏風の比較映像
が常に流れている。
一定間隔で
「画面にふれると家康、信雄、秀吉の
映像が見られます」
などのテロップが出ます。

画面をタッチ

映像選択画面が出る。
見たい映像に触れると、
映像がスタートします。

画面遷移図

映像選択

今と昔比較映像

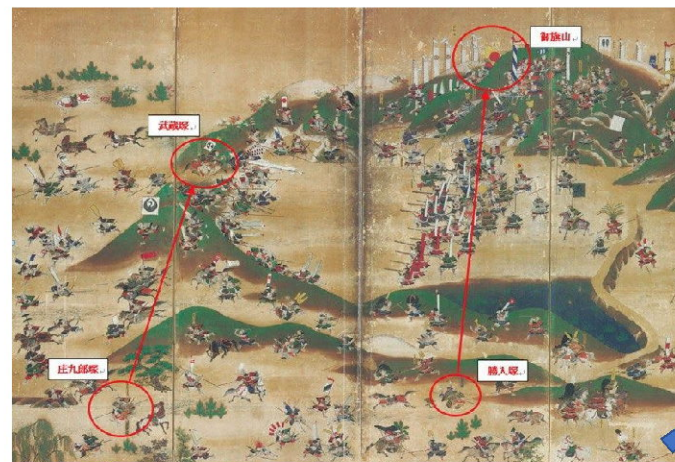
家康が語る長久手の戦い

信雄が語る長久手の戦い

秀吉が語る長久手の戦い

今と昔の比較映像（待機映像）

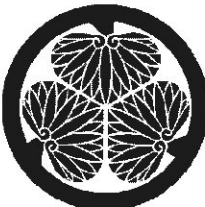
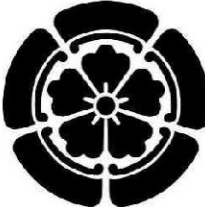
現在の長久手の街の写真（上空から）と長久手合戦図屏風の画像とをフェードなどの
演出手法を用い徐々に重ね合わせていくことで、昔の長久手の戦いの要素（場所）が、
現在はどこであるのかを明らかにしていきます。
待機映像として、繰り返し比較を見せていく事で、来館者に自然と位置関係を記憶し
てもらいます。



画像が重なっていき
交互に現れる



主要な場所をランドマークとし、

家康が語る長久手の戦い	織田信雄が語る長久手の戦い	羽柴秀吉が語る長久手の戦い
概要 ギリギリの勝利で危うかった事を回想。長久手での戦いが天下取りに果たした意義を語る。 小牧出陣するのが遅かったり、一つの戦いの結果が違ったりしたら、負けていたかもしれない。ここで秀吉を打ち破ったことは大きな財産となった。 上映時間 約1分 想定  徳川家康 私は徳川家康。 長久手の戦いは一進一退、 油断を許さぬ戦況であった。 だが秀吉軍の動きは読めておる。  徳川家の馬印 早々に富士ヶ根に至り、金扇の馬印を掲げた。 秀吉軍は我が隊の進軍の早さに大層驚いておったわ。 私は秀吉軍を壊滅させ、勝利を手にした。  家康の馬印 一刻でも判断が遅れたなら、この戦を皮切りに、徳川家は破滅へと進んだであろう・・・ それにしても信雄殿、私に無断で秀吉殿と講和など結びよって・・・ 今や私は秀吉殿の家臣。 じっと耐え、機会を伺うのだ・・・	概要 長久手合戦での勝利のあと、信雄をターゲットにした秀吉の戦い方への恨み言をいう。暗愚と言われているが、信長の子の中で自分の一族だけが江戸時代大名として存続している事を誇る。 上映時間 約1分 想定  織田信雄 私は織田信長の次男、織田信雄である。 父上の亡き後、秀吉は主君である我が織田家に歯向かい、力を増すばかりであった。 このまま秀吉を野放しにはしておれん！ 私は家康殿と手を組み、見事秀吉に勝利した！のだが・・・ 戦後、秀吉の総攻撃に遭い、私は多くを失ってしまった・・・ 家康殿には申し訳ないことをしたが、もはや秀吉と講和を結ぶ他なかった・・・ 暗愚と言われた私だが、今や江戸に名を残しているのは我が一族のみである。 なんとも誇り高いことよ。  織田家の馬印  織田信雄	概要 長久手で負けて、その後家康を攻める計画であったが天正大地震でダメになってしまった。ここで負けて天下取りの道のりが狂ってしまった。 上映時間 約1分 想定  羽柴秀吉 わしは豊臣秀吉じゃ。 長久手の戦の時はまだ「羽柴」と名乗っておった。 信長様の亡き後、その仇を取り、順調に勢力を増していったわしじゃが、小牧・長久手の戦いではちと油断してしまった。 だがわしは諦めが悪い。戦後も家康討伐を計画し、準備も万全であった。だが、いよいよ出陣のまさにその時、「天正大地震」が起こった。 この地震により、わしは計画を中断せざるを得なかった・・・ この地震がなければ、もっと早くに天下を手にしていたかもしれないものを・・・  羽柴家の馬印  羽柴秀吉

井伊 直政	本多 忠勝	永井 直勝
井伊直政 私は、井伊直政と申す 今では徳川四天王とも呼ばれるが、 この時はまだ怖いもの知らずのただの若武者よ 天正壬午の乱に続いて、此度の戦でも 同盟の交渉役を仰せつかったが、 見事に果たしてみせた。 ここからは、いくさ場で大暴れよ 武田に習いし赤備えに敵も慄いておるわ 井伊の赤鬼？ ……はっはっはっは！面白い！ ならば悪鬼羅刹となって 秀吉どもを蹴散らしてくれるわ！ 井伊直政 (約45秒)	本多忠勝 拙者は本多平八郎忠勝。 此度の戦では、秀吉16万の兵に押される 殿を お守りするため 5000の兵で駆けつけた。 全然足りぬと申すか？ では、敵陣の前まで出向き、 川で愛馬の口でも洗ってやろう。 この名槍蜻蛉切を持って睨みをきかせれば、 蜘蛛の子を散らすようなものよ 秀吉自ら、東国一と認めた拙者の武勇 名を挙げたくば命を捨てる覚悟を持って 参られい！！ (約45秒)	永井直勝 私は、永井直勝と言います。 幼い頃から芸事に秀でた私は 家康様の小姓として働いておりました。 この戦では敵の大將首を挙げ、 武芸も得意だということをご覧に入れま しょう！ 私は指を失いながらも必死の思いで、 敵の大將池田勝入を見事討ち取ったので す。 だが、その首の値打ちも思ったほどじゃ ありませんでしたねえ・・・ まあ、後の世に私の子孫たちが 名を残してくれているのなら、 良しとしましょう。 (約45秒)

安藤 直次		石川 数正		水野勝成	
   	紀伊田辺藩の初代藩主 安藤直次だ。 私は数多くの戦いに出陣して敵を蹴散らし 家康様を支えてきた。 この戦では 池田恒興や森長可といった武将たちを討 ち取り、家康様の息子である頼宣様の 付家者となった。 全ては忠誠を誓う徳川家のため。 息子の重能が戦死したときも 「犬にでも食わせろ」と言って弔わずに 軍の立て直しを優先させたほどだ。 冷徹だと思うか？ …しかし本当は弔ってやりたかった。 誰にも言うつもりはないがな。	  	わしは信濃松本藩 初代藩主 石川数正じゃ。 この名を聞いて「裏切り者」と 思った者もおるであろう。 なぜなら元々家康様の家臣であったわしは、 この戦の後に秀吉様のところへ寝返った のだから。 自分で言うのもなんじゃが、交渉術にたけ、 頭の切れる家臣はわしくらいしかおらん かったからの～ 家康様の他の家臣どももさぞ驚いたであ ろうな。 ん？寝返った理由か？ さあ？なぜじゃろうな～ はっはっはっ。	   	わしは、三河の国刈谷藩 初代藩主の水 野勝成じゃ。 親父殿はなかなかわしを認めようとせんが、 わしは16の初陣の時に、15の首を挙 げて信長様から旗印を与えられた。 この戦の時は眼病を患っていたから 兜を被れなかったのじゃが それを親父殿は咎めた。 あまりにも腹が立ったから 「兜がないことで頭を割られるかは時の 運！一番首を取るか、わしが取られるか、 見てるが良い！」 と出陣したのじゃ。 一番首？ 家康様にくれてやったわい。
	(約40秒)		(約40秒)		(約42秒)

成瀬 正成	池田 恒興	池田 元助
    わたしは、犬山藩 初代藩主の成瀬正成と申します。 実は初めての出陣がこの戦でございまして。 私は兜首ひとつを挙げる手柄をとり、17歳にして一軍の将にまでなりました。 そんな私は徳川家一筋！家康様のためであれば命をも捨てる覚悟で生きて参りました…！ なのに…家康様は私に、秀吉がお前を欲しがっているから、そちらへ仕えてくれと言ってきたのです！ 思わず泣いちゃいましたよ。 (約40秒)	    僕は、池田恒興じゃのちに出家したので「勝入」とも言われたがのう 織田信長様には小姓時代からお仕えしていた。乳兄弟であり、いわば幼馴染みじゃの。 そんなわしが、長久手の戦いでは信長様の御次男様である織田信雄様につかず、秀吉どのについたのは理由がある。 秀吉殿の甥である豊臣秀次が娘婿に、次男輝政が秀吉殿の養子にと約束したからじゃ。 しかし秀吉殿は長久手の戦いの後三河入りをわしが考えた後に語っていたようじゃが なんのなんの ありゃ、秀吉どのが… ゴホン、まあええかの… 家康軍は強かったということじゃ！ (約45秒)	    僕は、池田元助である 思えば生まれたときから戦いであった。 花隈城の戦いではその戦いを褒められて信長様より名馬を頂いたこともあった。 池田軍の大將として出陣した山崎の戦いでは秀吉様と共に明智光秀を打ち破ったもんだ。 そして長久手の戦い。父恒興、義弟の森長可殿が次々とうたれる中わしもうたれてしまった。まだ20代だったのだが あとから弟の輝政が言っていたそうだが父の首をとった永井直勝の褒美が5000石と知り、父の首がたった5000石の価値しか無いのかとがっかりしたらしい。 わしも同じ意見じゃ…ちなみに5000石とは今だと、5億円くらいか？ (約50秒)

